



駒形哲哉 教授

専門：経済政策(経済体制論)

(インタビュアー：迫本・池田)

『中国という国は驚きの連続』

Q. 駒形先生の専門とされている研究内容はなんですか？

研究しているのは中国経済です。特に経済の政策や制度の変化が実態の経済、企業の行動、産業の技術の発展にどのような影響を与えているのかということに関心を持っています。特に、中国というのは日本から見ると、日本経済は中国なしには成り立たなくなってきていて、つきあわざるを得ない相手になってきています。そうした中で中国がどうなっているのかというのをきちんと把握して行く末についての展望を持たないといけない。となると中国が過去にどうした政策をとって、どういった制度の変化があってどのように経済が成長したかというのを整理して把握する必要があると思います。こうした理由から中国における制度、政策そして実体経済についての研究を行っています。基本的には実体経済からのアプローチを行っていて、実際に中国に行ったり関連資料から論理を組み立てたりしています。

中国経済を研究するきっかけについてですが、小さい頃にインドネシアに住んでいたときに、インドネシアなのに中国系の人がたくさんそこで生活をしていて、私自身中国人と間違えられて石を投げられるということがありました。なんで中国人だと石を投げられるのかということにそこで関心をもち、また、帰国時に香港から台湾に入った際、中国大陸との関わりを疑われて本を没収されたりしました。日本に帰ってきて、中国の報道がよく流れるようになったこともあり、大学でも中国について学ぼうと思うようになり、中国経済のゼミに入りました。

『学問を通じた人間形成が大切』

Q. 駒形先生の教育理念を教えてください

獨協大学の天野貞祐先生の理念が、学問を通じた人間形成というものを掲げられていて、獨協大学はその理念に基づいて運営されています。私はその理念を素晴らしいと感じ、大学ではサークル活動も体育会も重要ですが、大学というものは勉強する場所ですから、学問を通じて自分を鍛えるということが望ましいと思います。学生には自分の生活の中心を、学問を通じた人間形成においてほしいです。いま、コミュニケーションや人間関係というものは非常に重要になってきており課外活動や学外の活動は確かに重要なのですが、それでも大学では学問を通じた人間形成において思考能力、表現力、変化に対応する力をつけてほしいです。また、できるだけ何か一つのこと集中して、与えられた場所で全力を尽くしてほしいです。いろんなことにチャレンジするのもいいですが、何か一つのことを突き詰めて初めていろいろなことが出来ると思います。今この場所で頑張れない人はどこにいても頑張れないと思います。今与えられた場所で全力で頑張ってみることで新しいものが見えてくるんだと思います。

『学生時代はごく普通の学生でした』

Q. 駒形先生の学生時代のお話を聞かせてください

学部生のときは、ごく普通に就職を考えていました。あまり行かなかったですが、普通にテニスサークルにも入りまし、あとは中国関係の学生団体にも入っていました。中でも塾の講師のアルバイト学生時代は頑張りましたね。日吉時代はあまり勉強してなかったですが、三田に行って勉強しようというふうに思うようになりましたね。それで、中国経済のゼミに入って勉強していくと、もっと勉強したいと思うようになり、その後大学院に進みました。

『与えられた場所で、全力を尽くしてほしい』

Q 駒形ゼミを志望する2年生に求めるものは何ですか？

そうですね、基本的にゼミの活動を第一に考えてこれに打ち込んでくれる人ですね。限界まで頑張って、頑張って大変だったけど最後には楽しかったなあと思ってもらえるようにしてほしいですね。そのためにはゼミに時間を最も費やせる人を求めています。それだけ個人でもみんなでもやることが多いので……。そのかわり時間を最優先して投入する気力さえあればその他の能力はそれほど必要ありません。

『自分が何をやりたいかという基準でゼミ選びを！！』

☆最後に2年生へのメッセージをお願いします☆

とにかく学問を通じて人間形成できる場って実はあまり多くないということを自覚してください。慶應大学の経済学部というのは学問を通じて自分を鍛えることが出来る貴重な場ですから、是非自分が何をやりたいのかという基準をもってゼミにチャレンジして欲しいと思います。